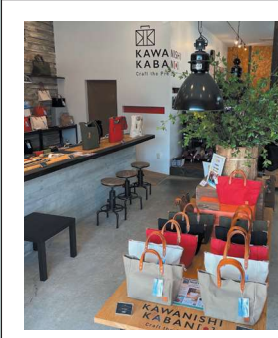


事例
16

あの企業はこう使っている! 株式会社
事例に学ぶIT・IoT導入 カワニシカバンプロダクト



カバン・革小物、ビジネスリュックなどの製造・販売を手掛けるバックメーカー。「ながく愛されるものづくり」を経営理念にバックで香川ブランドを発信しています。



〒761-8074 香川県高松市太田上町384-15
TEL 087-880-8079
HP kawanishikaban.com

なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいイメージが湧かない...」。
そんな皆さま必見のコラムです。
高松のIT・IoT先進企業（リーディングカンパニー）が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。
第16弾は、株式会社カワニシカバンプロダクト。代表取締役の川西功志さんにお話を伺いました。

ITツールの導入で生産管理を強化し
ブランド価値を向上

業務の属人化を招きやすい
ものづくりの仕事

職人の多いものづくりの現場では、個人の経験や知識に頼り、業務のやり方や情報が特定の人にしか把握できない属人化を招きやすい傾向があります。属人化していると、作業効率低下するだけでなく、原価管理など企業にとって重要な情報も見えにくくなります。一つひとつ手作りのカバンを製造・販売するカワニシカバンプロダクトでも、業務の属人化は大きな課題でした。

アナログな情報管理で
品質にムラがでることも

会社では、1年前まで各製品の革の種類や大きさ、ファスナーの長さや本数といった情報を職人が紙に手書きし、各個人で管理・把握していました。いざ、もう一度同じ製品を作る際には資料探しからスタート。資料が見つからず、一からやり直すこともしばしば。そのせいで、前回と同じ製品のはずが、微妙に違う仕上がりになることもまた、資料の書式が統一されておらず、資材発注は担当者本人にしか

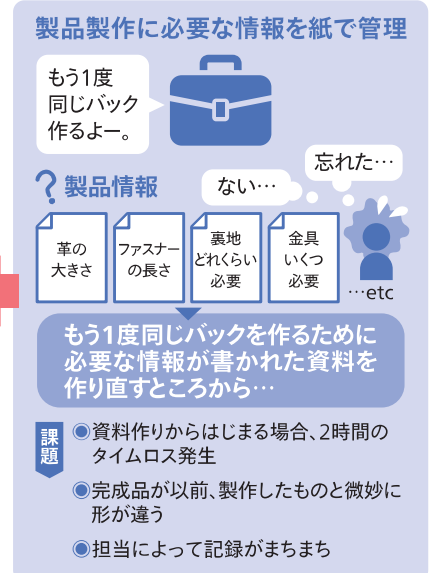
生産管理システムで
業務効率UP

できませんでした。各材料の所要量を職人たちは手計算で割り出す必要があり、不得手な作業に時間を割くことで本来のものづくりに専念できていない状況でした。

情報の見える化で業務
効率UP&品質の均一化

改善策として同社が開発したのは、データベース管理システムを活用した生産管理システム。製造に関わるデータを一本化することで、製品管理から購買管理、日報管理、顧客管理までを統合的に管理することができ、導入後は、製品製作に必要な情報が社内で共有可能になり、資料を探す手間や計算作業の省略はもちろん、資材発注は手隙の者が誰でもできるように、生産性に対する職人たちの意識も向上し、業務効率アップや品質の均一化が実現しました。「当社の商品はカバンではなく、職人一人ひとりの仕事」です。職人たちが本来の業務に集中できるようになったことは大きなメリットと川西社長。IT導入はブランド価値の向上につながっています。

社長の声
生産管理システムを導入したことでムダな時間を大幅に削減し、その分SNSの発信や新商品の開発に力を入れることができている。今後はさらにITツールを活用して、お客さまとコミュニケーションを図り、店頭販売や営業に、より力を入れたいと考えています。



図解
生産管理システムで情報を一元化。
ムダ時間削減で業務効率UP